

保育生活感想 (抄)

— 子供と共に生きる —

これは、先日或る保姆養成所の先生が來園されし折示された、生徒の保育實習感想摘記である。

○

自由遊が大切だミ聞いてゐるが、實習に出て始めてそれを感じました。幼稚園へ出てゐるミ其の間、自分個人の心配事ミか又しやくに觸つてゐたミいふ様な事はすっかり忘れてしまふ。本當に不思議な程です。子供の心はこれ程も私達の心をひきつけるものかしら。(A子)

○

…子供と共に遊びつゝ…「ほんまうに幼児のお友達であらうか」…しかし私の膝に肩に置く手、そしてここにこぎ疊りない様でうたつてゐるのを見ては、こんな事は考へたくない。眞實は「幼児のお友達の一にして頂いた」のでも私はかまはぬ。(B子)

○

二學期は私の收穫時であつた。…自分で一つの組を責

任持たされ、益々子供を見る上に利がもたらされた譯である。こゝに於て初めて子供を見たミいふより感じたミいふべきか。『先生』ミ側に寄つて來る。子供のその短い言葉の裏にどれだけ多くの意味が含まれてゐる事だらう。それは個々によつてすべて異つた意味を示してゐる事ミ感じ得た。特に自分で受持つ組の子に對しては、ちいつミ無言で見上げるその顔一つで大體何を語り欲してゐるかをさんな要求を私に持つてゐるかを察し得る程、それ程私は子供の内部に親んで來る事が出來た事をさう云つたらいいかわからない程うれしく思ふ。(C子)

○

子供は本當に私達の心持をよく覺るものです。

口では命令的に叱つてゐるようさ本當に心の中でその子供を愛しその子の爲を思ひその子供の心に共鳴してゐるならば、よくその心を汲みこつてくれます。その反對に、自分の爲を考へて云ふ時は、いくら優しく云ふても聞いてくれません。

始めて〇〇幼稚園に行つた日でした。友達もないのか淋しそうに皆の遊んでゐるのを眺めてゐる子供がありました。その姿があまりにもいぢらしく思ひ、同情させられました。するさ、自然にその心持が動作に現はれるのか、今日一番私を待つてゐてくれるのはこの子供です。

子供の心をくみ、愛をもつて先生としてでなしに子供の友達として楽しく生活をして行く、それはみんなに楽しい世界であらう。

今まではあまり外形に生き、本當に遊ぶ事が出来なかつた事を子供にあやまらなくてはならない。これは大きな罪でした。〇〇幼稚園の子供さん達よ、ゆるして下さい。でもまだ若い爲か、先生きざりであるつもりだがごこかに子供々々しさがあつたのか、朝でも他の先生よりも私を待つ

てゐてくれた事、本當にうれしく思ひます。もう皆さしよに遊ぶのも僅かです。もう少し早く氣がついたら、……でも僅かの残る日を共に楽しく遊びませう。これからは生れ變りますよ！ 私は若い、子供の友達としての生活の方が私の生活にびつたり來そうだ。そしていつまでも若くて楽しく送られる様な氣がする。(D子)

〇

私としてうれしい事は、此の頃特に子供と共に居る事、子供と共に生活する事、子供と共に遊ぶ事をこの上なくうれしく感じてゐる事である。實習生活の毎日、特に自由遊びは狭い庭で狭いながらに遊ぶ色々の遊びは何もかも忘れてうれしく感じる時である。(E子)

お知らせ

例年の春の『幼児教育講演會』を、五月廿七日
(土曜日)に開催いたします、何卒多數お誘合せ
の上御來會下さい。(廣告面を御覽下さい)